

寄付行動の経済分析:東日本大震災前後の変化を中心として

2015年4月20日

中田大悟

要旨

本稿では、中高齢者を対象としたパネルデータであるJSTARを用いて、家計の寄付行動に関しての実証分析を行った。得られた主な結論は以下のとおりである。

女性は寄付行動を起こしやすいが、金額を有意に増やしたのは2011年の災害発生後だけであった。平常時には年齢はあまり影響を持たないが、2011年は年齢が寄付行動に影響を与え、かつ逆U字の関係性が見いだせた。さらに、フローとストックの経済力はともに寄付に有意な影響を与えるが、特に2011年の災害発生後は資産に恵まれた人がより積極的に寄付を行った。

経済力以外の要因としては、主観的健康状態に不安のある人は寄付を控える傾向がみられ、また国家の役割への認識が強い人ほど寄付金額を抑えた傾向性がみられた。また、被災地からの地理的距離が遠い中高齢者は、寄付金額を抑制した可能性があるとともに、日常生活における社会参加の有無は寄付行動を強く促進することがわかった。

